



ユーザ メッセージの保護：アクセス、配布、および存続期間の制御

ユーザは、メッセージの機密性を設定することにより、誰がボイス メッセージにアクセスできるか、およびボイス メッセージを他者に再配布できるかどうかを制御できます。また、Connection では、ユーザがボイス メッセージを WAV ファイルとして自分のハード ドライブや、Connection サーバの外部にある他の場所に保存できないようにする方法が管理者向けに用意されています。このため、管理者は、メッセージがアーカイブまたは削除される前に保持される期間を制御できます。

次の各項を参照してください。

- [プライベートまたは安全のマークが付いたメッセージに対する Connection の処理 \(P.21-1\)](#)
- [すべてのボイス メッセージに対する Media Master の「名前を付けて保存 \(Save Recording As\)」オプションの無効化 \(P.21-3\)](#)
- [IMAP クライアント アクセスのメッセージセキュリティ オプション \(P.21-3\)](#)

プライベートまたは安全のマークが付いたメッセージに対する Connection の処理

Cisco Unity Connection では、ユーザが電話でメッセージを送信するときに、メッセージにプライベート、安全、またはプライベートと安全の両方のマークを付けることができます。また、管理者は、外部発信者によって残されたメッセージに Connection が安全のマークを付けるかどうかを指定することもできます。

プライベート メッセージ

- ユーザは、メッセージを送信するときに、メッセージにプライベートのマークを付けることができます。
- 外部発信者がユーザにメッセージを残す場合、プライベートのマークを付けることはできません。
- どの受信者も (Connection ユーザ以外を含む)、プライベート メッセージを受信できます。受信者は、必要に応じて、電話機、Cisco Unity Inbox、または IMAP クライアントを使用して、プライベート メッセージを聞くことができます。
- ユーザがプライベート メッセージに回答する場合、その回答には通常のマークが付けられません。
- プライベート メッセージは、電話または Cisco Unity Inbox から転送できません。
- IMAP クライアントからアクセスする場合、管理者によって特に指定されていない限り、プライベート メッセージを WAV ファイルとしてローカルに保存してコピーできます (ユーザがプライベート メッセージを WAV ファイルとして保存できないようにする方法については、[P.21-3 の「IMAP クライアント アクセスのメッセージセキュリティ オプション」](#)を参照してください)。

ださい)。

- プライベートメッセージの場合、Cisco Unity Inbox の Media Master のオプションメニューにある [名前を付けて保存 (Save Recording As)] オプションは自動的に無効になります。したがって、プライベートメッセージは Connection サーバにしか格納されません。このため、管理者は、メッセージがアーカイブまたは削除される前に保持される期間を制御できます。

安全なメッセージ

- ユーザがメッセージを送信する場合、サービス クラスの設定によって、メッセージに安全のマークが付けられるかどうかが決まります。デフォルトでは、ユーザがメッセージにプライベートのマークを付けるときには必ず、Connection によって自動的にメッセージに安全のマークが付けられます。
- 外部発信者は、メッセージに安全 (またはプライベートと安全) のマークを付けることができます。代わりに、ユーザアカウントおよびコールハンドラの [編集 (Edit)] > [メッセージ (Messages)] ページにある [識別できない発信者のメッセージのセキュリティ (Unidentified Callers Message Security)] チェックボックスによって、Connection が外部発信者からのメッセージに自動的に安全のマークをつけるか、外部発信者からのメッセージを通常の機密性で送信するかが決まります。
- Connection ユーザだけが安全なメッセージを受信できます (VPIM 連絡先も安全なメッセージを受信できます。ただし、これは、メッセージを送信する前にメッセージの機密性を通常に変更するよう VPIM ロケーションが設定されている場合に限りです。詳細については、「[VPIM ネットワークの使用方法](#)」の章を参照してください)。
- 安全なメッセージは電話および Cisco Unity Inbox から再生できますが、IMAP クライアントからはアクセスできません。
- 安全なメッセージへの応答にも、安全のマークが付けられます。
- 安全なメッセージは、他の Connection ユーザ、および同報リスト内の Connection ユーザに転送できます。転送されるメッセージにも、安全のマークが付けられます。ユーザは、転送されるメッセージおよび応答の機密性を変更できません。
- 安全なメッセージの場合、Cisco Unity Inbox の Media Master のオプションメニューにある [名前を付けて保存 (Save Recording As)] オプションは自動的に無効になります。したがって、安全なメッセージは Connection サーバにしか格納されません。このため、管理者は、メッセージがアーカイブまたは削除される前に保持される期間を制御できます。

すべてのボイスメッセージに対する Media Master の「名前を付けて保存 (Save Recording As)」オプションの無効化

デフォルトでは、プライベート、安全、またはプライベートと安全のマークが付いたメッセージを除いて、ユーザは Cisco Unity Inbox の Media Master のオプションメニューにある [名前を付けて保存 (Save Recording As)] オプションを使用すると、メッセージを WAV ファイルとしてハードディスクに保存できます。ボイスメッセージの機密性に関係なく、ボイスメッセージをユーザが保存できないように設定できます。これを行うには、Cisco Unity Inbox の Media Master のオプションメニューにある [名前を付けて保存 (Save Recording As)] オプションを使用不可にします。

このセキュリティ オプションを検討する場合は、次の点に注意してください。

- ユーザがメッセージをハードディスクに保存することを禁止すると、ユーザは、メッセージをアーカイブする方法として、[Inbox] フォルダと [削除済みアイテム (Deleted Items)] フォルダにメッセージを長い間残しておく傾向があります。
- [名前を付けて保存 (Save Recording As)] オプションを無効にすると、Connection サーバに関連付けられているすべてのユーザに影響します。特定のユーザについてのみ無効にすることはできません。
- ユーザは引き続き、Media Master を使用して、グリーティングまたは名前の録音を WAV ファイルとして保存できます。

Cisco Unity Inbox の Media Master の [名前を付けて保存 (Save Recording As)] オプションを無効にする

- ステップ 1** Cisco Unity Connection の管理で、[システム設定 (System Settings)] > [詳細設定 (Advanced)] を展開し、[PCA] をクリックします。
- ステップ 2** [PCA の設定 (PCA Configuration)] ページで、[Unity Inbox: メディア マスターのオプションとしての録音の保存を無効にする (Unity Inbox: Disable Save Recording As Option in Media Master)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

IMAP クライアント アクセスのメッセージセキュリティ オプション

ユーザは、IMAP クライアントから通常の機密性またはプライベートの機密性のマークが付いたボイスメッセージにアクセスする場合、メッセージを WAV ファイルとしてハードディスクに保存したり、メッセージを転送したりできます。ユーザが IMAP クライアントからボイスメッセージの保存または転送（あるいはその両方）を行うことを禁止するには、次のサービス クラス オプションのいずれかを指定することを検討します。

- メッセージの機密性に関係なく、ユーザが IMAP クライアントでメッセージのヘッダーだけにアクセスできる。
- ユーザは、プライベートのマークが付いているメッセージを除き、すべてのメッセージの本文にアクセスできる (IMAP クライアントで安全なメッセージにアクセスすることはできない)。

■ IMAP クライアント アクセスのメッセージセキュリティオプション